



SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバ プロダクトノート

XCP 1070 版

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社
〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	vii
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのサポートについて	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
マニュアルへのアクセス	viii
コメントの送付先	viii
XCP1070 に関する一般的な情報	1
XCP 1070の新着情報	1
サポートされるファームウェアおよびオペレーティングシステム	2
Solarisパッチに関する情報	2
XCP 1070へのアップグレード	3
機能の問題と制限	3
SPARC64 VIIプロセッサの注意点	3
一般的な機能の問題と制限	3
ハードウェアに関する情報	6
電源再投入時の注意	6
ハードウェアに関する問題と回避方法	7
ハードウェアマニュアルの変更予定	7

装置の底面図	8
免震工法	11
免震台足	11
セーフット適用時の注意事項	11
グラウンドプレート工法	12
グラウンドプレート工法の要否判定フローと手配担当	13
グラウンドプレート手配、および設置担当	14
グラウンドプレート仕様	14
UPCの分岐接続	14
接続できる場合	15
接続できない場合	16
ソフトウェアに関する情報	17
XCPに関する問題と回避方法	18
Solaris OSに関する問題と回避方法	23
ソフトウェアマニュアルの変更予定	40
XCP 1050以降へのアップグレード準備	42
XCP104xからXCP 1050以降へのアップグレード	42
システム内の縮退メモリの識別	47
システムボード上の異なるメモリサイズの識別	47
showdevicesコマンドを使用する	47
prtdiag コマンドを使用する	48
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	49

はじめに

本書では、SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム (OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<https://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのインストール、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris 関連のマニュアル

<http://www.sun.com/documentation>

コメントの送付先

本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を営業担当者または当社技術員にお知らせください。

なお、コメントをお寄せいただくときは、対象となるドキュメントの名称およびマニュアル番号もあわせてお知らせください。

XCP1070 に関する一般的な情報

ここでは、XCP1070に関する一般的な情報について説明します。

- [XCP 1070の新着情報](#)
- [サポートされるファームウェアおよびオペレーティングシステム](#)
- [XCP 1070へのアップグレード](#)
- [機能の問題と制限](#)

XCP 1070の新着情報

本リリースでの新しい特徴は以下のとおりです。

- SPARC64 VIIプロセッサがサポートされます。SPARC64 VIIプロセッサの使用については、[3ページの「SPARC64 VIIプロセッサの注意点」](#) および関連するマニュアルを参照してください。
- 2008年4月にリリースされたSolaris 10 5/08は、ドメインのオペレーティングシステムとしてサポートされています。
- SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ関連マニュアルの巻末に記載されていた用語集は、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ用語集』として分冊化されました。ハイエンドサーバおよびミッドレンジサーバ全般にわたる用語が記載されています。各マニュアルとともにご覧ください。

サポートされるファームウェアおよびオペレーティングシステム

本リリースでは、以下のファームウェアおよびオペレーティングシステムがサポートされています。

表 1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

ファームウェアおよびオペレーティングシステム	バージョン
XSCF Control Package (XCP)	1070
Solaris™ Operating System	
SPARC64 VIプロセッサ搭載	10 11/06以降、および必須パッチ
SPARC64 VIIプロセッサ搭載	10 5/08

XCPは、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/download/firmware/>

Solarisパッチに関する情報

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでは、以下の必須パッチが提供されています。

これらのパッチは、Solaris 10 8/07以降が動作しているサーバには必要ありません。

- 118833-36（125100-04の前に118833-36をインストールしてください。）
- 125100-04以降
- 120068-03以降
- 123839-07以降
- 125424-01以降
- 125075-01以降
- 125670-02以降

注 – viiページの「ソフトウェアリソース」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

XCP 1070へのアップグレード

XCP 1050より前のバージョンからXCP 1070へアップグレードする場合は、42ページの「[XCP104xからXCP 1050以降へのアップグレード](#)」からの説明を参照してください。

XCP 1050以降からXCP 1070へアップグレードする場合は、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFユーザーズガイド』を参照してください。

機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

SPARC64 VIIプロセッサの注意点



注意 – SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのプロセッサを SPARC64 VII プロセッサにアップグレードする場合は、停止交換で行ってください。SPARC64 VII プロセッサを本体装置に取り付ける前には、XCP ファームウェアを必ず 1070 にアップグレードしてください。

- SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ内で、SPARC64 VIプロセッサと SPARC64 VIIプロセッサを混在させた構成は、本リリースではサポートされていません。

一般的な機能の問題と制限



注意 – 動的再構成 (DR; Dynamic Reconfiguration) およびホットプラグに関する問題については、[表 5](#) を参照してください。

- ZFS ファイルシステムを使用したドメインは DR を行うことができません。
- IOUA (基本I/Oカード) の搭載は、1ドメインあたり6枚までです。
- CD-RW/DVD-RWドライブユニットとテープドライブユニットを同時に使用しないでください。

- XSCF ブラウザユーザーインターフェース(以降、XSCF Web)では、PCIボックス管理機能をサポートしていません。
- ログアーカイブ機能は、本リリースではサポートしていません。
- XSCFをドメインのNTPサーバとする場合は、XSCFが参照するDNSサーバおよびNTPサーバのICMPプロトコルをブロックしないように設定してください。
- 外部電源制御装置(F7973RC1)の外部電源制御インターフェース (EPC)を使用するとき、次の通知信号はサポートしていません。
 - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号(電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP cards (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
 - 各ドメインで、カードを3枚以上使用することはできません。
 - PCIボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP cards (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。
 - PCIボックス内で、カードを3枚以上使用することはできません。
 - SPARC Enterprise M8000/M9000サーバでは、カードを9枚以上使用することはできません。
- OpenBoot PROMファームウェアをアップデート完了の状態にするには、対象となるドメインの電源オフ/オンを必ず行ってください。
- Solaris OSがシングルユーザーモードの場合、ドメインコンソールからXSCFシェルへ移行すると、Solaris OSがマルチユーザーモードで起動されることがあります。Solaris OSがシングルユーザーモードで操作する場合は、ドメインコンソールからXSCFシェルに移行しないでください。
- ドメインはXSCFをNTPサーバとすることを推奨します。この場合、以下の注意が必要です。
 - XSCFは、外部NTPサーバに接続しなければなりません。
 - XSCFのほか、1つまたは複数のNTPサーバをドメインに接続する場合は、XSCFに指定したNTPサーバと同じサーバに接続してください。

NTPの詳細については、当社技術員にお問い合わせください。NTP設定の詳細については、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFユーザーズガイド』を参照してください。
- XSCFユニットが二重化構成の場合、ISNアドレスは同じサブネット内のアドレスでなければなりません。
- XCP 1050以降のXCPをインストールしたSPARC Enterprise M8000/M9000サーバではXSCFユニットの二重化機能が動作しています。このため、1050版以降のXCPをインストール済みのサーバに、XSCF二重化機能をサポートしていないXCP 1040またはXCP 1041を再インストールすることはできません。

- 以下の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。
root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、
ldap、apache、ntp、admin、default
- XSCF Webを使用し、XCPのインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に**Session ID error**が表示されることがあります。また、**Autologout**設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、ファームウェアアップデートの際に**Internal Server Error**が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Webに接続しなおしてください。
- XSCF Webを使用する時、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合は、プラグインを削除する、またはポップアップブロック設定を無効にしてください。
- XSCF-LANはオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LANと全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3の規約によって、XSCF-LANは半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。XSCF-LANと接続するネットワーク機器は、必ずオートネゴシエーションに設定してください。
- CODボードに対してDR操作をしているときに、**addcodlicense(8)**、**deletecodlicense(8)**、**setcod(8)**コマンドを実行しないでください。

ハードウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- [電源再投入時の注意](#)
- [ハードウェアに関する問題と回避方法](#)
- [ハードウェアマニュアルの変更予定](#)
- [免震工法](#)
- [グラウンドプレート工法](#)
- [UPCの分岐接続](#)

電源再投入時の注意

メインラインスイッチまたは配電盤のブレーカによって、本体装置の電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。

ハードウェアに関する問題と回避方法

表 2 はハードウェアに関する問題とこれらの問題に対する回避方法を示します。

表 2 ハードウェアに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールがMailbox timeoutまたはIOCB interrupt timeout errorを表示することがあります。	OpenBoot PROM (OK)プロンプトからreset -allコマンドを発行し、再起動してください。
6557379	電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。	一系統受電のサーバでは、すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません。

ハードウェアマニュアルの変更予定

表 3 では、今後のマニュアルの変更予定を示します。

表 3 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに関するすべてのドキュメント		「はじめに」に「SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ関連マニュアル」が掲載されている場合は、以下のマニュアルが追加されます。 『SPARC Enterprise/PRIMEQUEST共通 設置計画マニュアル』(C120-H007) DVD という表記は、すべてCD-RW/DVD-RWと読み替えてください。 各ドキュメントの巻末にある「用語集」は削除され、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ 用語集』として分冊化されます。

表 3 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-7	「表1.1 サーバの仕様」 主記憶 (メモリモジュール) に8GB DIMM搭載時の最大メモリ容量が記載されていますが、現時点では8GB DIMMを搭載することはできません。
	1-15	「1.3.3 I/Oユニット」 LANポートの種類について、1000Base-T/100Base-TX/100Base-Tと記載されていますが、正しくは1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tです。
	1-19	「1.5.3 SPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体) オプション」 SPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体) の最大メモリ容量について、最大2Bメモリと記載されていますが、正しくは最大2TBメモリです。 ただし、ここに記載されている最大メモリ容量は8GB DIMM搭載時のものであり、現時点では8GB DIMMを搭載することはできません。

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル』の訂正

次の情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル』の情報よりも優先されます。

装置の底面図

ここでは、「1.2.2.2 装置の底面図」の1-16ページ「図1.18 SPARC Enterprise M8000 サーバ + 電源筐体の装置底面図」および1-18ページ「図1.20 SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体) + 電源筐体の装置底面図」を訂正します。
正しい図は、以下のとおりです。

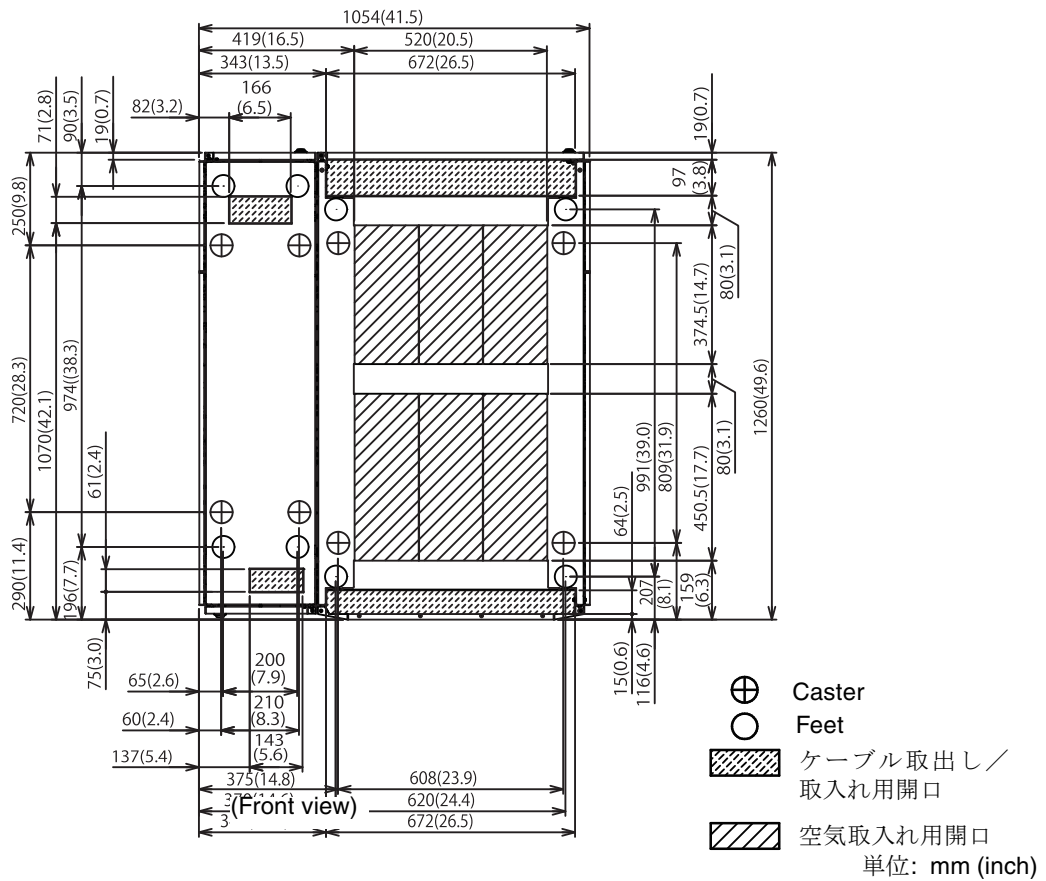
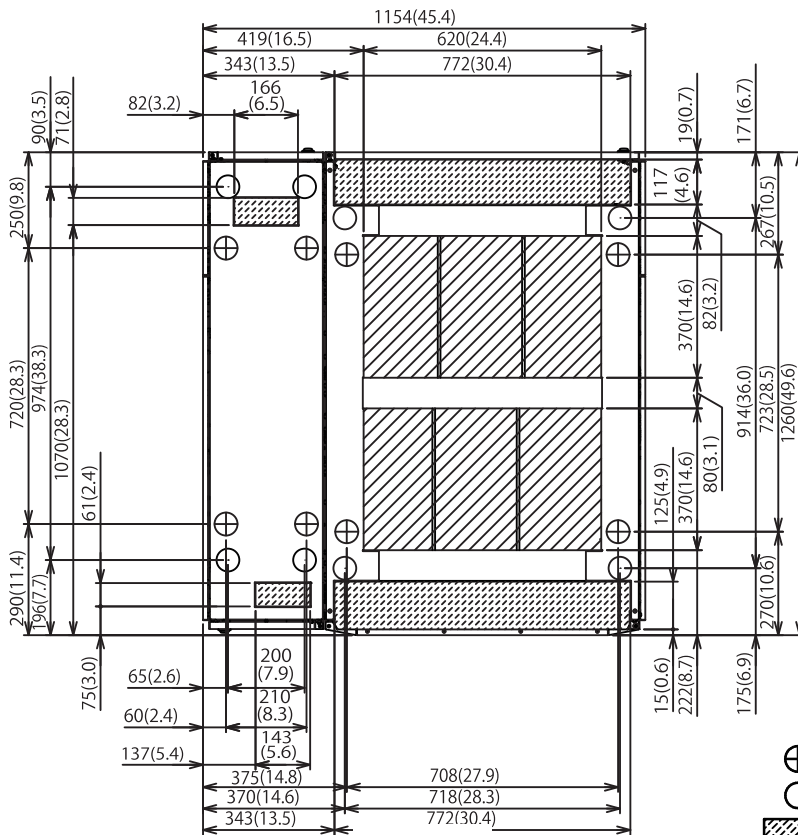


図 1-18 SPARC Enterprise M8000 サーバ + 電源筐体の装置底面図



(Front view)

- ⊕ Caster
- Feet
-  ケーブル取出し／
取入れ用開口
-  空気取入れ用開口

単位: mm (inch)

図 1-20 SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体) + 電源筐体の装置底面図

免震工法

免震台足

機器の台足(レベルフット)を、免震台足（セーフット）：CA82001-3000に交換します。（4ヶ/1筐体）

運用については、コンピューター機器の地震対策マニュアル（C109-H001）にしたがってください。

セーフット適用時の注意事項

フリーアクセス床などにケーブル用または空調用開口を設ける場合、以下の間隔を確保してください。

1. セーフット中心（台足中心）より105 mm以上
2. キャスター中心より60 mm以上

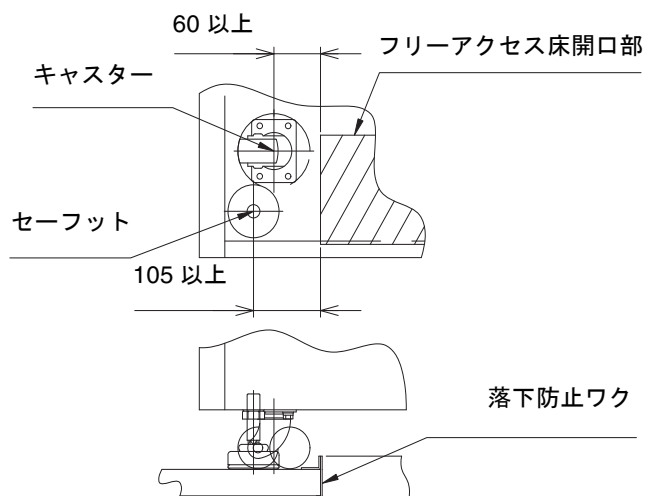


図 1 装置下部とフリーアクセス床開口部の例

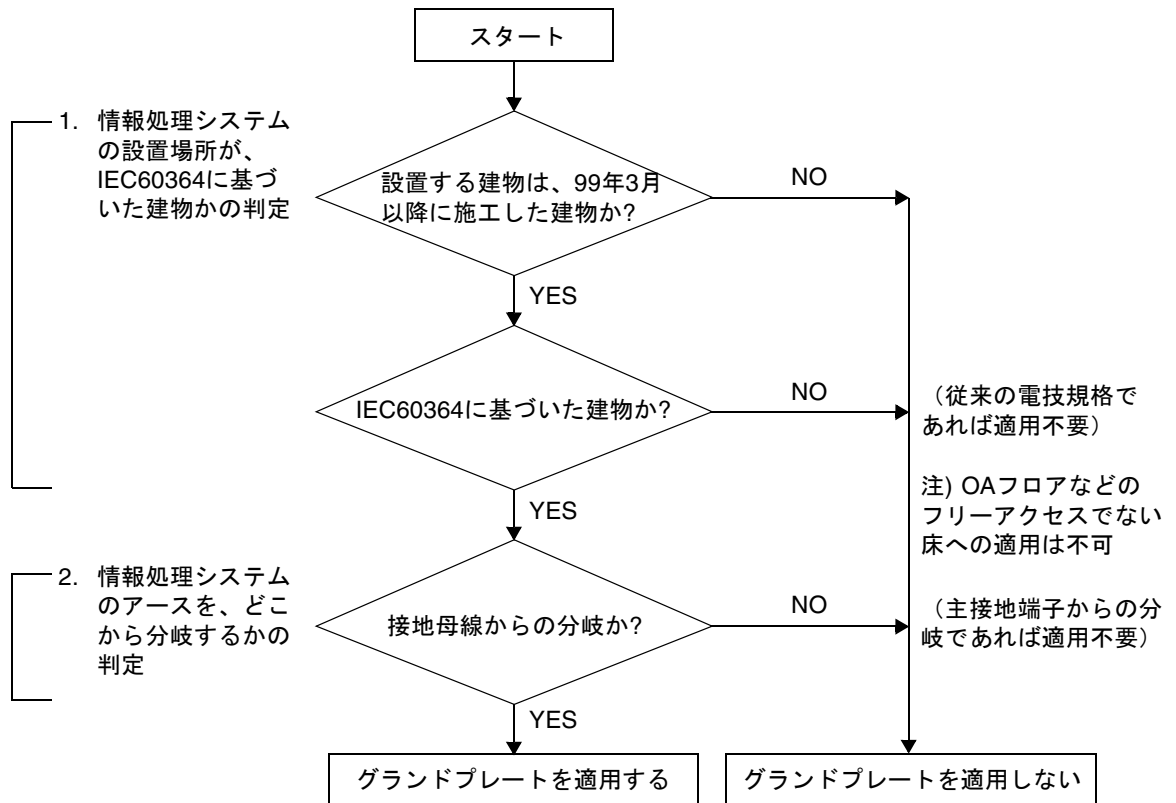
グラウンドプレート工法

IEC規格に準拠した共用接地設備では、他の電気機器、空調設備、エレベーターなどから発生したノイズが共用接地線を介してシステムに侵入する可能性があります。このようなノイズによる悪影響を防ぐため、グラウンドプレート工法を必要とする場合があります。

以下に、この工法の要否判定、適用システム基準、および手配担当などを示します。

グラウンドプレート工法の要否判定フローと手配担当

注 - グラウンドプレート工法の要否は、営業、SE、工事部門が互いに連携を取って判定すること。



グラウンドプレート手配、および設置担当

グラウンドプレートの手配、および設置作業は、工事部門にて行ってください。

グラウンドプレート仕様

手配仕様：CA80001-0287

サイズ

幅：0.32 m、長さ：4.02 m、厚さ：1.8 mm
(銅箔を高抵抗の導電シートで覆ったもの。表面色：グリーン)

UPCの分岐接続

UPSインターフェース6分岐コネクタを使用すると、最大6台のUPSを接続できます。

UPSインターフェース6分岐コネクタの外観図を [図 2](#) に示します。

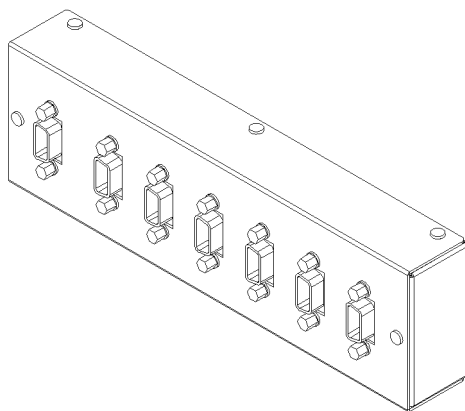


図 2 UPSインターフェース6分岐コネクタ

本体装置のUPCインターフェースは、以下に説明している条件を満たせば、分岐コネクタを使用して複数台のUPSに接続できます。ここでは、本体装置のUPCインターフェースの分岐接続の条件について説明します。

接続できる場合

UPSと本体装置が以下の接続形態の場合には、信号ケーブルを接続できます。

- 1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 3参照）
- 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合（図 4参照）

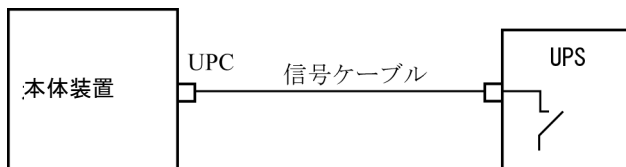


図 3 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)

重要 – 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合、本体装置からの送出信号（ER信号）の条件によっては、信号ケーブルが接続できないことがあります。この接続形態で接続する場合には、当社技術員にご相談ください。

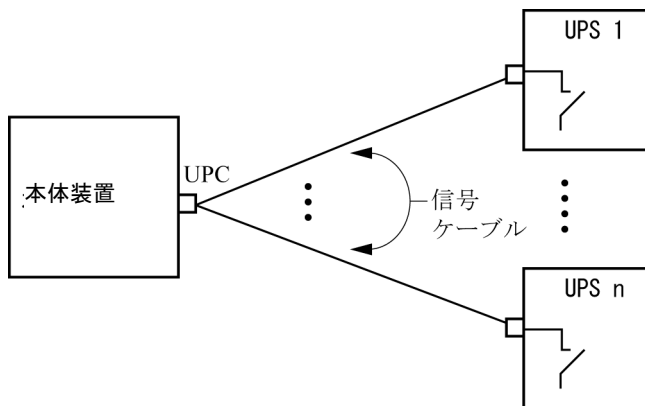


図 4 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合)

接続できない場合

複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 5参照）、UPSと本体装置との信号ケーブルの接続はできません。

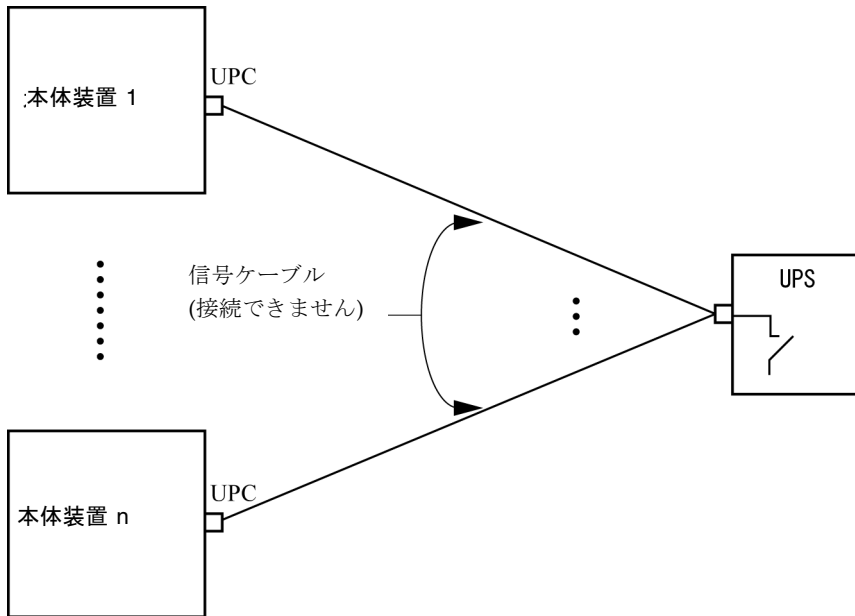


図 5 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続ができない場合
(複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)

ソフトウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバのソフトウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- [XCPに関する問題と回避方法](#)
- [Solaris OSに関する問題と回避方法](#)
- [ソフトウェアマニュアルの変更予定](#)
- [XCP 1050以降へのアップグレード準備](#)
- [XCP104xからXCP 1050以降へのアップグレード](#)
- [システム内の縮退メモリの識別](#)
- [システムボード上の異なるメモリサイズの識別](#)
- [ターゲットボードのカーネルメモリの識別](#)

XCPに関する問題と回避方法

表 4 に、XCPに関する既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 4 XCPに関する問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-009	XSCFが動作中、プロセスダウン、watchdogタイムアウトまたはハングアップが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、全ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、全ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-070823-001	XSCF Webを使用してsnapshot画面で、SSHを選択したとき、Host, Directory, ID, Passwordの入力可能文字数がXSCFシェルでの入力可能文字数と一致しません。	XSCF Webでの入力可能文字数を越えるような値を指定したい場合は、XSCFシェルを使用してください。
RTIF1-070824-002	XSCF WebでDomain Mode Configurationを選択し、各設定を行ったとき、ポップアップ画面が表示されず、画面上に"Undefined"が表示される場合があります。	再度、Domain Mode Configurationを選択して設定を行ってください。 または、一旦、XSCF Webを終了させてから、設定を行ってください。
RTIF1-070824-005	XSCF WebでMonitor Message FrameのRefresh Interval値を変更したとき、"Confirmation Domain mode" の不当なポップアップが表示される場合があります。	ポップアップ画面を無視して画面を閉じてください。
RTIF1-070824-006	タブブラウザで同一ホストに対し、異なるユーザー権限のユーザーアカウントで複数ログインすると、最後にログインしたユーザーアカウントのユーザー権限が、ログイン済のページにも適用されてしまいます。	タブブラウザを使用する場合、同一ホストに対して複数ログインしないでください。

表 4 XCP に関する問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070824-011	FireFox2を使用し、Domain Configuration画面のConfiguration policy設定で稼働中のdomainを指定した場合、エラー表示ポップアップのBackボタンをクリックし、情報再表示のための問合せ画面でCancelボタンをクリックするとエラーメッセージ画面のままとなります。	Menuの項目からDomain Configurationページを再選択してください。
RTIF1-070904-001	スタンバイ側のXSCFでCLIコマンドを実行したとき、Permission denied と表示されない場合があります。	スタンバイ側のXSCFで実行できるCLIコマンドは、次のコマンドだけです。 snapshot(8)、switchscf(8) スタンバイ側のXSCFでこれら2つのコマンド以外を実行しないでください。 上記2コマンド以外を実行すると、さまざまなエラーが通知されます。
RTIF1-070904-004	showarchiving(8)コマンドのlatest communication フィールドが定期的にアップデートされません。	archivingをいったん無効にしてから再度有効にすると、showarchiving(8)のアウトプットのLatest communicationがリフレッシュされます。
RTIF1-070914-003	XSCFの切替えがおこなわれた時、エラーログに"SCF: Board control error (DMA timeout)"が格納されている場合があります。	有効な回避方法はありませんが、このメッセージは無視しても差し支えありません。
RTIF1-070914-025	Firmware UpdateページのXCP Syncを実行すると15分後に"Another flashupdate is now processing"のエラーメッセージ、"ページを表示できません"または空白ページが表示される場合があります。	有効な回避方法はありません。ただし、XCP Sync処理は継続して実行されています。監視メッセージ上のXSCF update完了メッセージにより、Sync処理の完了を確認してください。
RTIF1-071102-002	snmpデーモンが終了する場合があります。	setsnmp enableコマンドを実行し、snmpデーモンを再起動してください。
RTIF1-071116-001	CPU/メモリボードユニットの活性交換でaddfru(8)、deletefru(8)またはreplacefru(8)コマンドを使用したあと、さらにDR操作を行うと、ボードがDRで利用できないという間違ったメッセージでエラーになる場合があります。	addfru(8)、deletefru(8)またはreplacefru(8)コマンドを実行したあとに診断テストを実行してください。 addfru(8)/deletefru(8)/replacefru(8)コマンドで診断テストを実行し忘れた場合には、CPU/メモリボードユニットに対してtestsb(8)コマンドを実行するか、deletefru(8)コマンドでCPU/メモリボードユニットとI/Oユニットを削除してからaddfru(8)コマンドと診断テストを行ってください。

表 4 XCP に関する問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-071116-002	カーネルメモリに対してDR操作を行っているときにXSCFがフェイルオーバーすると、ドメインがパニックする場合があります。	DR操作中にXSCFをフェイルオーバーしないでください。DR操作が終了してからフェイルオーバーを開始してください。フェイルオーバーを先に開始した場合は、フェイルオーバーが終了してからDR操作を行ってください。
RTIF1-071116-005	システムの電源投入中に、switchscf(8)コマンドによりXSCFの二重化切り替えを行ったとき、切り替え前のXSCFでPANICが発生し、SHUTDOWN timeoutのエラーログが格納される場合があります。	このエラーログは無視しても差し支えありません。
RTIF1-071126-002	初期導入時にメインラインスイッチを投入したとき、以下のいずれかのエラーログが出力される場合があります。 PSU shortage XSCF watchdog timeout XSCFU hang-up is detected XSCF process down detected	システムの電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。 再度エラーログが出力された場合は、再度、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-071129-003	PCIボックスの異常により、Solaris OSメッセージに以下のメッセージが出力されたとき、XSCFにはエラーログが登録されません。 SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-4P, TYPE: Fault	有効な回避方法ははありません。

表 4 XCP に関する問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-080313-001	<p>XSCFをドメインのNTPサーバとする場合に、ドメインを起動すると以下のメッセージがドメインコンソールに出力され、時刻同期ができない場合があります。</p> <pre data-bbox="315 357 793 406">ntpdate[xx]: no server suitable for synchronization</pre>	<p>ドメインのxntpdで設定されているモードによって、以下のどちらかを実行してください。</p> <p>注 - step モードの場合、時刻を補正することで時刻飛びが発生します。時刻飛びが発生すると、ドメインで稼働中のアプリケーションに影響がでる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • stepモードの場合 <ul style="list-style-type: none"> -wオプションを指定してntpdate(1M)コマンドを実行してください。NTPサーバと同期できるまで、一定の間隔で、ntpdateコマンドがリトライされます。リトライ時には、NTPサーバと同期できなかったことを表すメッセージが出力されますが、無視しても問題ありません。同期が完了するとNTPサーバの時刻に補正されます。 • slewモードの場合 <ul style="list-style-type: none"> -wオプションを指定しないでntpdate(1M)コマンドを実行してください。slewモードでは、0.5ms/秒の間隔で、NTPサーバとの時刻差が補正されます。NTPサーバと同期できなかったことを表すメッセージが出力されますが、無視しても問題ありません。時刻が完全に補正されるまでは、NTPサーバとドメイン間で時刻差が生じています。

表 4 XCP に関する問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-080325-001	<p>AC 電源を投入したり、rebootxscf(8) または switchscf(8) コマンドを実行したりした場合には、以下のどちらかの現象が発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下のエラーメッセージがエラーログに登録され、ステータスが Faulted となり、スタンバイ側の XSCF が起動できなくなります。 Device error on serial interconnection between XSCFUs XSCF へログインできなくなり、オペレーターパネルの POWER スイッチを押しても電源が投入できません。 	<p>AC 電源を投入したり、rebootxscf(8) または switchscf(8) コマンドを実行したりする前には、XSCF LAN が正しく接続され、リンクアップされていることを確認してください。</p> <p>上記の現象が発生した場合は、以下のどちらかの作業を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> replacefru(8) コマンドを使用して、スタンバイ側の XSCF ユニットを取り付けなおしてください。 全ドメインの電源を切断後、本体装置の電源を切断/投入してください。電源を再投入するときは、電源を切断したあと 30 秒以上待ってから投入してください。
RTIF1-080404-001	<p>XSCF の deleteboard(8) コマンドおよび moveboard(8) コマンドを使用して DR 操作を行うと、I/O チャネルの縮退が確認され、エラーメッセージおよび関連する ereport が登録されることがあります。</p> <p>この問題が発生した場合は、fmdump(8) コマンドによって、以下のエラーが間違えて出力されます。</p> <pre>ereport.chassis.SPARCEnterprise. asic.ioc.ch.leaf.fe</pre>	<p>このエラーは無視しても差し支えありません。</p>
RTIF1-080404-002	<p>setsnmpusm passwd コマンドでパスワードを設定する場合に、8 文字未満でパスワードを設定すると、segmentation fault が発生します。</p>	<p>パスワードは常に 8 文字以上で設定してください。</p>

Solaris OSに関する問題と回避方法

表 5に、Solarisに関する既知の問題とこれらの問題に対する回避方法を示します。

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
5076574	PCIeエラーが、大規模なM8000/M9000ドメイン上、無効な障害診断につながる可能性があります。	これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。 [回避方法] 以下を含む、/etc/fm/fmd/fmd.conf ファイルを作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6303418	SPARC Enterprise M9000サーバにおいて、1ドメインあたりのCPUスレッド数が170を超えた場合、ハングアップする場合があります。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。 Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ120011-01で修正されました。 [回避方法] 170 CPUスレッドを超えないようにしてください。Solaris OS のpsradm(1M)コマンドを使用して余分なCPUスレッドをオフラインにし、CPUスレッドの数を1CPUコアあたり1つに制限してください。例えば、すべての奇数のCPUスレッドをオフラインにするなどです。
6348554	以下のカード上で <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、 <code>i_mdi_pi_offline</code> 中にコマンドがハングすることがあります。 <ul style="list-style-type: none">SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBASG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBASG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBASG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA	これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。 Solaris 10 8/07以前をご使用の場合は、パッチ126670-01で修正されました。 [回避方法] これらのカードに対して、 <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを実行しないでください。

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6416224	単一のNICカードの接続数が5,000を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。 Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。 [回避方法] 複数のNICカードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6440061	ドメインのコンソールに、 ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure) というメッセージが表示されることがあります。	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6441349	システム内でI/Oエラーが発生したときに、システムがハングすることがあります。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6449315	Solarisの cfmadm (1M)コマンドを実行しても、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ上のドメインからDVDドライブが構成解除されません。	cfmadm(1M)コマンドでDVDドライブを構成解除するには、事前にボリューム管理デーモン (vold) を無効にする必要があります。 voldを無効にするには、 /etc/init.d/volmgt stop コマンドを発行してデーモンを停止します。デバイスを取り外したり取り付けたりした後は、 /etc/init.d/volmgt start コマンドを発行してデーモンを再起動します。
6459540	SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; "SEAGATE_DAT"と"DAT72-000"の間には、4つの半角スペースがあります。

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6466617	PCI-Express スロットのHot Plug操作が速すぎると、PCI リーフのリセットが中断されて障害が発生し、cfgadm: Component system is busy エラーが発生します。	cfgadm -c コマンドを続けて発行するとき は、数秒の間隔をおいて発行してください。
6472153	SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ以外のサーバ上にSolarisフラッシュアーカイブを作成し、それをSPARC Enterprise M8000/M9000 サーバにインストールすると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。その結果、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	これは、Solaris10 5/08で修正されました。 [回避方法] インストールした直後にSPARC Enterprise M8000/M9000 サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします。 # sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600" この作業は1回だけ実行してください。
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。
6485555	レースコンディションにより、オンボードのGigabit Ethernet NVRAMに障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	これは、Solaris10 8/07で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ120011-08で修正されました。 有効な回避方法はありません。

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>uncorrectable error (UE) パニック後、"cpumem-diagnosis" モジュールのロードに失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、通常このモジュールを使用しFMAによって自動的に診断されているイベントは、マニュアルでの診断が必要になります。</p> <p>例 :</p> <p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor</p> <p>EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007</p> <p>PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ff-em7-d0</p>	<p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>問題が発生した場合、以下を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 以下のファイルを削除してください。 # rm/var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis 2. fmdサービスをリスタートしてください。 # svcadm restart fmd <p>問題を事前に回避する場合、 /lib/svc/method/svc-dumpadm の以下の場所に "rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis" を追加してください。</p> <pre># # We haven't run savecore on a dump device yet # savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem- diagnosis/cpumem-diagnosis #</pre>
6498283	<p>ドメインで psradm を操作中に DR の deleteboard(8) コマンドを使用するとシステムがパニックすることがあります。</p>	<p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-07で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません。</p>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6499304	<p>Correctable Error (CE) が多数発生すると、CPUがオフラインにならず、予期しないメッセージがコンソール上に表示されます。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法] XSCFでCPUステータスを確認してください。</p>
6502204	<p>CPU UEパニック後、ブート中に、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法] 予期しないメッセージが表示されたら、XSCFのshowdomainstatus(8)コマンドでドメインステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>PCI Hot Plugによるカードの挿入または取り外しに対する通知メッセージが出力されないことがあります。</p>	<p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません。</p>
6505921	<p>I/O correctable errorが多数発生すると、多数のSUNOS-8000-ILメッセージがコンソール上に表示されます。</p>	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。Solaris 10 8/07以前をご使用の場合は、パッチ 120011-14および125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法] 営業担当者または当社技術員にご連絡ください。</p>
6508432	<p>I/Oスロット1またはPCIボックスにおいて、Correctable エラー (CE) が大量に発生した場合、修正可能なエラーであるにも関わらず、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>これは、Solaris 10 8/07で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>[回避方法] /etc/system に以下の設定を行い、ドメインを再起動してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</p>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6508434	PCI Hot Plugにより、PCI-Xカードの増設およびPCI-Xの交換を行うとドメインがパニックする場合があります。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。 Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。 [回避方法] PCI Hot Plug 機能により、同一スロット上のPCI-Xカードの種類を変更しないでください。
6509337	s10s_u3WANブートに失敗し、サーバが「416: Requested Range Not Satisfiable」を返しました。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。
6510861	Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X7SC2F, SE0X7SC2X)を搭載している場合、correctable error (CE) が発生するとパニックします。	これは、Solaris10 8/07で修正されました。 Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。 [回避方法] 以下を/etc/system のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください: set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6511374	システム構成変更後、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。 例: WARNING: Translation error source /LSB0/B0/0, PA 3c000000000, target /LSB0/B0/20000000	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6515648	dr@0:SB1::memoryの失敗時、「Replumb Failed」の問題が発生します。	DR操作が完了したら、手動で設定できます。 インターフェースを手動で再設定する手順の例は、次のとおりです。 # ifconfig interface plumb xxx.xxx.xxx.xxx netmask + broadcast + up # ifconfig interface group group-name # ifconfig interface addif xxx.xxx.xxx.xxx -failover deprecated up この回避方法は、/etc/hostname.<interface>ファイルがIPMPグループに対して正しく設定されており、修正の必要がないことを前提としています。上述の例で使用しているIPアドレスは、以前使用していたIPアドレスおよび/etc/hostname.<interface>ファイルと一致していなければなりません。

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6516135	cfgadm(1M) によりデバイスや Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	以下の操作を使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 1) devfsadm (Solarisプロンプトで) 2) cfgadm
6519290	/tmp (tmpfs) に巨大なファイルや大量のファイルを作成した場合、または、復旧可能な軽度のメモリ不足が発生した場合、スワップデバイスへの I/O が大量に発行され、システムがスローダウンすることがあります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください。 set maxfastscan=0x2000
6520990	Dynamic Reconfiguration (DR) によるカーネルボードの deleteboard(8) コマンドを実施した場合、ドメインがパニックすることがあります。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06 をご使用の場合は、パッチ 120011-08 で修正されました。 [回避方法] この問題を回避するために、以下を /etc/system のファイルに追加してから再起動してください。 set drmach:fmem_timeout = 30
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインでは、DR が失敗することがあります。	/etc/system に zfs_arc_max パラメータを設定し、ZFS が割り当てられるカーネルメモリ量を減らしてください。以下の例は、512M バイトに設定しています。 set zfs_arc_max = 0x20000000
6522433	CPU ハードエラーが発生した後、ドメイン上の fmdump(1M) コマンドで表示される故障コンポーネントが誤って表示されることがあります。	これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。 [回避方法] XSCF でシステムステータスを確認してください。
6527781	2つのドメイン間をDVD/DATドライブを移動するときに、cfgadm(8) コマンドで障害が発生します。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06 をご使用の場合は、パッチ 125081-06 で修正されました。 有効な回避方法はありません。DVD/テープドライブを再構成するために、問題が検出されたドメインで reboot -r を実行してください。
6527811	PCI カードを搭載した PCI ボックスを PCI hotplug で追加した場合、PCI ボックス内の PCI カードの情報が XSCF の showhardconf(8) で表示されません。	これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 128346-01 で修正されました。

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6529714	1台のI/Oポートに4枚を超えるX4447A-ZカードまたはX1027A-Z1カードを組み込もうとすると、警告メッセージが表示されます。	有効な回避方法はありません。
6530178	DR のaddboard(8)コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインの再起動が必要です。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ120011-07で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6530288	cfgadm(1M) コマンドで表示される Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ120011-07で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6530753	PCIボックスのPCIスロットの一部が、通常のブート動作中に表示されません。	以下の操作のいずれかを使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 <ul style="list-style-type: none"> • boot -r (at OpenBoot PROM prompt) • devfsadm -C (at Solaris prompt) • cfgadm (twice at Solaris prompt)
6531036	ネットワークインストール後、network initialization failed のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。
6531668	DR中にHot Plug処理を多重で実行すると、システムがハングします。	有効な回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。 <pre>svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95.</pre> <pre>svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59.</pre>	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。 <pre># svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6533686	<p>カーネルメモリが存在するシステムボードを DR の deleteboard(8) または moveboard(8) コマンドで削除した場合、削除処理に失敗することがあります。</p> <p><ドメイン側のメッセージ> drmach: WARNING: DR parellel copy timeout dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: DR parellel copy timeout</p>	<p>この現象が発生した場合は、DR 操作を再度実行してください。</p> <p>カーネルメモリが存在するシステムボードを削除する前に、以下の操作を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. /etc/system に以下の記述を追加する set drmach:drmach_disable_mcopy = 1 2. ドメインを再起動する
6534471	<p>ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。</p> <p>Solaris 10 11/06 をご使用の場合、これはパッチ 125100-06 で修正されました。</p> <p>[回避方法] 以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください。 set heaplp_use_st1b=0</p>
6535018	<p>データベースの負荷などで多数のスレッドが同一ロックに競合した場合、スループットが低下します。</p>	<p>SPARC64 VII プロセッサを含むドメインでは、最大 256 スレッドを超えないようにしてください。</p>
6535564	<p>DR で追加したシステムボード上の PCI スロット #0, #1 または PCI ボックスに対する PCI Hot Plug が失敗することがあります。</p>	<p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。</p> <p>Solaris 10 11/06 をご使用の場合、これはパッチ 120011-08 で修正されました。</p> <p>[回避方法] PCI Hot Plug の代わりに DR によりカードの追加・削除を実施してください。</p>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6536564	I/Oデバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) や showstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	<p>これは、Solaris 10 5/08で修正されました。Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合、これはパッチ125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。</p> <p>例 :</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</pre>
6537511	セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。
6539084	Solaris 10 11/06 環境下で、Sun 製の PCIe Quad-port Gigabit Ethernet アダプター UTP カード (X4447A-Z) が再起動中に、ごくまれにパニックすることがあります。	<p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません。</p>
6539909	<p>Solaris 10 11/06環境下で、boot net installコマンドを使用してSolaris OSをインストールしているとき、ネットワークアクセスに以下のI/Oカードを使用しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替のネットワークカードまたはオンボードネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由でSolaris OS をインストールしてください。

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6542632	driver attachが失敗すると、PCIeモジュールにメモリリークが発生します。	これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。 Solaris 11/06 をご使用の場合は、パッチ 120011-09 で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6545143	kcapeデーモンがkcache領域を拡張している場合、ユーザースタックがその拡張領域に存在するときは、その領域はデマップされ、flushwハンドラが実行されている間に、ptl_1パニックが発生する可能性があります。	これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。 Solaris 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127111-08 で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6545685	OSコンソールに以下のメッセージが表示された場合、以降の再起動において、メモリ縮退もしくはXSB縮退が発生することがあります。 例： mc-opl: WARNING: mc-opl rewrite timeout on /LSB0/B0	これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。 Solaris 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127111-08 で修正されました。 [回避方法] /etc/systemに以下の設定を行い、ドメインを再起動してください。 set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000
6546188	以下のカード上でホットプラグ(cfgadm (1M)) およびDR操作(addboard (8) および deleteboard (8))を実行中、システムがパニックします。 • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter	これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。 Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6551356	これまで未設定だったカードを設定するために hotplug (cfgadm(1M)) を実行中、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、"WARNING: PCI Expansion ROM is not accessible" というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、以下のカードが影響を受けます。 • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter	これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。 Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 [回避方法] cfgadm -c disconnect を実行し、カードを完全に削除してください。最低10秒間待ってから、cfgadm -c configure コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6556742	<p>DR中、DiskSuiteがmetadbを読めないとき、システムがパニックします。このバグは、以下のカードに影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA 	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 125166-06 で修正されました。</p> <p>[回避方法] metadbの複製データに別のHost Bus Adaptor 経由でアクセス可能であれば、パニックは回避できます。</p>
6559504	<p>以下のカードを使用すると、コンソール上に、"nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn" という形式のメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。</p> <p>[回避方法] このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
6563785	<p>以下のカードの接続を解除したあと、すぐに再接続すると、ホットプラグ操作が失敗する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127111-05 で修正されました。</p> <p>[回避方法] 接続を解除したあと、2、3秒待ってから再接続してください。</p>
6564332	<p>Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバがパニックまたはハングアップします。</p>	<p>SCA6000ドライバのバージョン1.0はホットプラグをサポートしていないため、ホットプラグ操作を行わないでください。</p> <p>必要なbootstrapファームウェアをアップグレードしたあと、SCA6000ドライバのバージョン1.1、およびファームウェアでホットプラグ操作がサポートされます。</p>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用している場合、固定メモリを含むボードに対してDRの <code>deleteboard(8)</code> コマンドを実行すると、接続が壊れてしまいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。</p> <p>[回避方法] DR操作が完了したら、影響するネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、<code>ipconfig</code>のマニュアルページを参照してください。</p>
6568417	<p>CPU DR <code>deleteboard(8)</code> 操作が正常終了後、以下のネットワークインターフェースを使用中に、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127111-02 で修正されました。</p> <p>[回避方法] <code>/etc/system</code> に以下を追加し、システムを再起動してください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>以下のカードを使用すると、ストレステストでデータ破壊が起こる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。</p> <p>[回避方法] <code>/etc/system</code>に以下の1行を追加して、システムを再起動してください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6572827	<p>SPARC Enterprise M8000/M9000サーバの <code>prtdiag -v</code> コマンドの出力に「Type」という列があります。Typeでは各デバイスに対して「PCIe」、「PCIx」、「PCI」、「UNKN」のいずれかが表示されます。これらの値を表示するためのアルゴリズムに問題があります。PCI-Xリーフデバイスには「PCI」、古いPCIデバイスには「UNKN」と表示されます。</p>	<p>有効な回避方法はありません。</p>
6584984	<p>SPARC Enterprise M8000/M9000サーバにおいて、<code>busstat(1M)</code> コマンドを実行すると、そのCMU上のドメインが再起動される場合があります。</p>	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません。<code>busstat(1M)</code> コマンドを実行しないで下さい。</p>
6588650	<p>XSCFフェイルオーバーまたはXSCFリセット後に、DRが実行できないことがあります。</p>	<p>有効な回避方法はありません。</p>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6589546	<p>prtdiag(8)コマンドは、以下のカードに対して、すべてのI/Oデバイスを表示しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA 	<p>これは、Solaris 10 5/08 で修正されました。</p> <p>[回避方法] すべてを出力する場合は、prtdiag -vコマンドを使用してください。</p>
6589644	<p>DRによりシステムボードを追加後、二重化されているXSCFで切り替えが発生した場合、ドメインのコンソールがハングアップする場合があります。</p>	<p>Ctrl-q ("Ctrl"キーと"q"キー) を押すと、復旧できます。</p>
6589833	<p>DRのaddboard(8)コマンドを使用し、Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA card (SG-XPCIE2FC-QF4)の追加を、SAPプロセスがこのカードに取り付けられているストレージデバイスにアクセスを試みるのと同じタイミングで行おうとすると、システムのハングを引き起こすことがあります。以下のカードが、情報量の多いネットワークトラフィック上で使用されていると、システムハング発生の可能性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>有効な回避方法はありません。</p>
6592302	<p>DR操作が正常に終了しなかった場合は、一部のメモリが組み込まれたままになることがあります。</p>	<p>再度deleteboard(8)コマンドを実行してください。</p>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6614737	<p>以下の条件下において、DRのdeleteboard(8) またはmoveboard(8)コマンドがハングアップすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DIMMが縮退している場合 • 搭載メモリサイズが異なるシステムボードが存在する場合 	<p>上記に該当する場合は、DR操作をしないでください。</p> <p>DIMMが縮退しているかどうかについては、XSCFのshowstatus(8)コマンドで確認できます。詳細は、47ページの「システム内の縮退メモリの識別」を参照してください。</p> <p>各システムボードの搭載メモリサイズは、XSCFのshowdevices(8)コマンド、またはドメインのprtdiag(1M)コマンドで確認できません。詳細は、47ページの「システムボード上の異なるメモリサイズの識別」を参照してください。</p> <p>DR操作がハングアップした場合は、ドメインを再起動してください。</p>
6619224	<p>SPARC64 VIIプロセッサを含むドメインが特定の異常な状況にあるとき、256スレッド(128コア)以上のドメインが、長時間にわたってハングすることがあります。復旧すると、uptimeコマンドで、極めて高い平均負荷率が表示されます。</p>	<p>SPARC64 VII プロセッサを含むドメインでは、ドメインサイズが 256 仮想 CPU を超えないようにしてください。これは、1つのドメイン構成内に最大 32 CPU チップ (SPARC Enterprise M8000 サーバの最大構成) を意味します。</p>
6623226	<p>Solarisのlockstat(1M)コマンドを実行すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>lockstat(1M)コマンドを使用しないでください。</p>
6625734	<p>シングルドメイン環境下で、大量のプロセッサが搭載されているシステムでは、一定の作業負荷がかかるとパフォーマンスが低下することがあります。</p>	<p>アプリケーションプロセッサをバインドする場合はプロセッサセットを使用するか、プロセッサをグループ化させるためにLWPを使用してください。詳細は、Solarisのpsrset(1M)コマンドのマニュアルページを参照してください。</p>
6632549	<p>DR によるシステムボードの追加および削除時に、ドメインの fmd サービスが maintenance モードになることがあります。</p>	<p>問題が発生したときは、ドメインの fmd サービスを再起動してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu error</code> エラーが発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> が失敗し、FMA サービスが中断されることがあります。これが発生すると、コンソールログに以下のように出力されません。</p> <p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008</p> <p>PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname></p> <p>SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0</p> <p>EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3</p> <p>DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information.</p> <p>AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis.</p> <p>IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur.</p> <p>REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT-ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</p>	<p>以下のどちらかを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 以下のコマンドで <code>fmd</code> を手動で再起動します。 <pre>#svcadm clear fmd</pre> • <code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。 <pre>xscf> fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>

表 5 Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6660197	<p>ドメインが以下のどちらかの状態の場合は、DR操作がハングする場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1つのドメインが256以上のCPUを含む場合 • 256以上のメモリエラーが検出された場合 	<p>以下の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. /etc/systemに以下の記述を追加する set drmach:drmach_disable_mcopy = 1 2. ドメインを再起動する
6679370	<p>OS 起動中、または Hotplug 機能による PCI ボックスの追加中、または DR 機能による FMEMA 処理中において、コンソールに以下のメッセージが出力される場合があります。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCI- Express subsystem. Refer to http://sun.com/msg/SUN4- 8000-75 for more information. ...</pre>	<p>/etc/systemに以下の設定を追加し、ドメインを再起動してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6565553 6674266	<p>DRのdeleteboard(8)またはmoveboard(8)コマンドによるシステムボードの削除が失敗することがあります。</p> <p>ドメイン側のメッセージ:</p> <pre>drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci</pre>	<p>有効な回避方法はありません。</p> <p>この現象が発生した場合は、DR操作を再度実行してください。</p>

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFリファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 6 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 6 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに関するすべてのドキュメント		「はじめに」に「SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ関連マニュアル」が掲載されている場合は、以下のマニュアルが追加されます。 『SPARC Enterprise/PRIMEQUEST共通 設置計画マニュアル』(C120-H007)
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	2-23ページ	ユーザーアカウントの長さは最大31 文字です。 表2.4 ユーザー設定では、誤ってユーザーアカウントの長さは最大32文字と記述されています。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル		すべてのDVD という表記は、CD-RW/DVD-RWに読み替えてください。
	adduser(8)/ マニュアルページ	ユーザー名の最長は 31 文字です。adduser(8) コマンドのマニュアルページでは、ユーザー名の最大文字数は 32 文字と記載されていました。
	console(8)/ マニュアルページ	説明にある注は、以下のように修正されます。 ドメインからログアウトしないで、ドメインコンソールから XSCF シェルコンソールに戻った場合は、自動的にドメインからログアウトされます。

表 6 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/ M9000 サーバ XSCF リフ アレンスマニュアル	sendbreak(8)/ マニュアルページ	オペレーターパネルのモードスイッチが locked にセットされている場合、 secure モードを on に設定するとブレイク信号は送信されません。詳細は、 setdomainmode(8) コマンドを参照してください。
	setdscp(8)/ showdscp(8) マニュアルページ	使用例の注にある『設置計画マニュアル』への参照は、『アドミニストレーションガイド』に読み替えてください。
	viewaudit(8)/ マニュアルページ	使用例 5 および 6 の出力例が異なります。

XCP 1050以降へのアップグレード準備

1. "admin" という名前のアカウントを削除します。

showuser -luコマンドを使って、すべてのXSCFアカウントを一覧表示させます。"admin" という名前のアカウントは、XCP 1050以降へのアップグレードの前に削除しなければなりません。このアカウント名は、XCP 1050以降用に予約されます。アカウントを削除するには、deleteuser(8)コマンドを使用してください。

XCP104xからXCP 1050以降へのアップグレード

注 - 以降の手順は、XCP1070へのアップグレードを例にして説明します。XCP 1050以降にアップグレードすることでXSCFU_B#1が動作を開始します。RCIをご使用されている場合、XSCFU_B#1のRCIを正しく設定する必要があり、このためにケーブルやターミネータを適切に接続しなければなりません。詳細は当社技術員にご連絡ください。

注 - XSCFユニットに「引継ぎIPアドレス」経由でアクセスしないでください。

注 - XSCFのリセット時に、LAN接続が切断されます。XCPアップグレード手順を簡素化するため、XSCFシリアル接続を使用することを推奨します。

1. プラットフォーム管理権限をもつアカウントで、XSCF#0にログインします。
2. showstatus(8) コマンドを使用して、FaultedまたはDeconfiguredの状態にあるコンポーネントが存在していないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

システム初期化中、障害が見つからなければ、showstatus(8) プロンプトが返りません。リストに何かが表示された場合、次の手順に進む前に、当社技術員にご連絡ください。

注 - BUI、あるいはsnapshot(8)コマンドを使用して情報を採取してください。この情報は、万が一、本手順実行中に問題が発生した場合の原因解析に役立ちます。

3. すべてのドメインを電源オフします。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレータパネルのキー位置をLockedからServiceに変更します。
6. XSCF snapshotを収集し、アップグレード前のシステムステータスをアーカイブします。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. XSCFU#0上のBUIを使用して、XCP 1070のアップグレードイメージをアップロードします。
8. flashupdate(8)コマンドを使用して、ファームウェアをアップデートします。



注意 - flashupdate(8) コマンドは、片方の bank をアップデートし、XSCF をリセットしてから、もう片方の bank のアップデートを開始します。current と reserve の bank が両方ともアップデートされたことを確認してください。両方の bank が XCP 版数 1070 を表示したら、次の手順に進んでください。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s version
```

アップデートするXCPの版数を指定します。この例では、1070です。

9. アップデートの完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

XSCF_B#0のアップデート中に異常が発生しないことを確認します。

10. XSCFU#0のcurrentとreserveの両方のbankが、アップデートされたXCP版数を表示することを確認します。

```
XSCF> version -c xcp

XSCF#0 (Active)
XCP0 (Reserve): 1070
XCP1 (Current): 1070
XSCF#1 (Standby)
XCP0 (Reserve): 0000
XCP1 (Current): 0000
```

XSCF#0のCurrentおよびReserveのbankがXCP版数1070を表示しない場合、当社技術員にご連絡ください。

11. サーバのすべてのメインラインスイッチを30秒間オフにします。
12. 30秒後、メインラインスイッチをオンに戻します。
13. XSCFファームウェアがready状態になるまで待ちます。
これは、XSCF_B#0およびXSCF_B#1のREADY LEDが点灯状態になることで、確認できます。
14. シリアル接続またはLAN接続を使用して、XSCFU#0にログインします。
15. `showlogs error -v` および `showstatus(8)` コマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

XSCFのハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、当社技術員にご連絡ください。

注 - `showlogs(8)` コマンドを実行すると、スタンバイXSCFに関する以下の2種類のエラーログが出力されます。これらのエラーログについては無視しても差し支えありません。

```
FRU: /XSCFU_B#1
Msg: Failed to decide active XSCFU (step1 timeout)
FRU: /XSCFU_B#1
Msg: Failed to decide active XSCFU (step2 timeout)
```

16. インポートされたXCPイメージを確認し、再度アップデートします。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s version
```

アップデートするXCPの版数を指定します。この例では、1070です。XSCF#1がアップデートされ、次に、XSCF#0が再度アップデートされます。

XSCF#0に対するファームウェアアップデートが完了すると、XSCF#1がアクティブになります。

17. シリアル接続またはLAN接続を使用して、XSCFU#1にログインします。
18. showlogs event コマンドを使用して、アップデートの完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

アップデート中に異常が見つからなかったことを確認します。

19. XSCFU#1のcurrentとreserveの両方のbankが、アップデートされたXCP版数を表示することを確認します。

```
XSCF> version -c xcp
```

```
XSCF#1 (Active)
XCP0 (Reserve): 1070
XCP1 (Current): 1070
XSCF#0 (Standby)
XCP0 (Reserve): 1070
XCP1 (Current): 1070
```

XSCF#1のCurrentおよびReserveのbankがXCP版数1070を表示しない場合、当社技術員にご連絡ください。

注 – RCIを使用している場合はRCIネットワークのセットアップを行ってください。RCIのセットアップについては当社技術員にご連絡ください。

20. XSCF間の切り替えが正しく機能することを確認します。

```
XSCF> switchscf -t Standby
```

```
The XSCF unit switch between the Active and Standby states.
Continue? [y|n] :y
```

- a. XSCFU_B#1のREADY LEDとXSCFU_B#0のACTIVE LEDが点灯状態になったら、シリアル接続またはLAN接続を使用して、XSCFU#0にログインします。

b. 以下のコマンドを使用して、XSCF間の切り替えを確認します。

```
XSCF> showhardconf
```

XSCF#1がスタンバイ、XSCF#0がアクティブになることを確認します。

```
XSCF> showlogs error
```

手順 16で確認して以降、新たなログが記録されていないことを確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

XSCFUがスタンバイの状態からアクティブの状態に入ったことを示すメッセージを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

「No failures found in System Initialization」のメッセージを確認します。

21. 引き継ぎIPを設定している場合は、IPアドレスの確認をします。

```
XSCF> shownetwork lan#0  
XSCF> shownetwork lan#1
```

22. すべてのドメインを電源オンします。

```
XSCF> poweron -a
```

23. XSCFU#0にログインし、すべてのドメインが正しく起動することを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

24. 新たなエラーが発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error
```

異常が見つかった場合は、適切な保守作業を行ってください。異常が見つからなければ、手順 25に進んでください。

25. オペレータパネルのキースイッチ位置をServiceからLockedに戻します。

システム内の縮退メモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showstatus
```

以下は、CMU#3上のDIMM番号00Aのメモリが縮退された例を示しています。

```
XSCF> showstatus
      CMU#3 Status:Normal;
*     MEM#00A Status:Degraded;
```

システムボード上の異なるメモリサイズの識別

ドメイン内に異なるメモリサイズのシステムボードが含まれているかを確認する場合は、以下のどちらかのコマンドを使用して、メモリサイズをリスト表示させることができます。

- XSCF上でshowdevices(8)コマンドを実行する
- ドメイン上でprtdiag(1M)コマンドを実行する

showdevicesコマンドを使用する

1. XSCFにログインします。

2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

以下は他のシステムボードが 16GB のメモリを搭載しているのに対して、システムボード 00-0 は 64GB のメモリを搭載している例を示しています。

```
XSCF> showdevices -d 1
Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
01	00-0	63680	0	0x0000004000000000	260288			
01	03-0	16384	7384	0x0000034000000000	260288			
01	03-1	16384	0	0x0000030000000000	260288			
01	03-2	16384	0	0x000002c000000000	260288			
01	03-3	16384	0	0x0000028000000000	260288			

prtdiag コマンドを使用する

- ドメイン上で、prtdiag コマンドを使用します。

```
# prtdiag
```

以下は異なるメモリサイズを表示した例を示しています。

```
# prtdiag
===== Memory Configuration =====

```

LSB	Memory Group	Available Size	Memory Status	DIMM Size	# of DIMMs	Mirror Mode	Interleave Factor
00	A	32768MB	okay	2048MB	16	no	8-way
00	B	32768MB	okay	2048MB	16	no	8-way
03	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
03	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
04	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
04	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
05	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
05	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
06	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

以下は、showdevices -dコマンドの出力の例を示したもので、0はdomain_idです。

```
XSCF> showdevices -d 0
...
Memory:
-----
      board      perm      base      domain  target deleted remaining
DID XSB  mem MB  mem MB  address  mem MB  XSB  mem MB  mem MB
00  00-0   8192     0 0x0000000000000000    24576
00  00-2   8192   1674 0x0000003c00000000    24576
00  00-3   8192     0 0x0000003400000000    24576
...
```

4列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674MBのカーネルメモリが00-2にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合、deleteboard(8)コマンドまたはmoveboard(8)コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

